

平成27年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔 総合科学部（総合科学科）〕

プログラムの名称（和文）	総合科学プログラム
（英文）	Integrated Arts and Sciences

1. 取得できる学位 学士（総合科学）

2. 概要

創設以来、一学科体制を堅持する総合科学部では、学際性、総合性、創造性を基本理念とした「総合科学プログラム」を提供しています。本プログラムが提示する到達目標（後述）を実現するために、以下に示す内容の教育を行います。

- 既存の学問体系を尊重しながら、複数の学問領域で創出された知識や研究法を学ぶと同時に、それぞれの領域が現代の諸問題とどのように関連しているのかを理解できる教育を実施します。
- 複雑で多岐にわたる知識や情報の収集整理と分析統合を通して、それらの持つ新たな意味や価値をみいだす能力を育成する教育を実施します。
- 多角的な視野からの知識に基づき、さまざまな課題を総合的に解決し、自己の責任において判断し、行動できる態度を育成する教育を実施します。
- 日本語と外国語の表現力・理解力および豊かな感性を涵養し、異文化・異領域の人びとにに対するコミュニケーションやプレゼンテーションの能力を育成する教育を実施します。

以上の教育内容の実践を目指す本プログラムでは、教養教育と専門教育を連続的かつ一体的に捉えていくことに特徴があります。1年次には、教養教育科目とともに、本プログラムの専門教育科目である「総合科学へのいざない」「総合科学概論」を履修し、総合科学的発想のもとで問題の発見と解決に向けた探究の基本姿勢を育みます。学問を体系的に学ぶために、3つの「教育領域（人間探究領域、自然探究領域、社会探究領域）」が、またそれぞれの教育領域内には「授業科目群」が設置されています。教育領域および授業科目群は独立したものではなく、相互に連関する総合科学学術ネットワーク（添付図参照）を構成しています。

学生は2年次に1つの教育領域を選択し、その教育領域内の授業科目群を中心に学習を進め専門性を深めます。同時に、他の教育領域の授業科目も履修することで、学際的・総合的な知識や方法論、視座を修得します。授業科目群選択の自由度は大きく、学際性・総合性に重点を置くこともできれば、専門性に重点を置くこともできます。教育領域内の授業科目群とは別に、「学際科目」および「専門共通科目」があります。学際科目では、自分が学んでいる専門領域がどのような学際的研究テーマに発展し得るのかを学びます。また、専門共通科目では、実践的外国語運用能力を高めるとともに、科学リテラシーや研究倫理についての理解を深めます。

卒業後は、本プログラムで修得した総合的知見と思考力をセールス・ポイントに、多様な分野で活躍できる人材として、実社会あるいは大学院へ送り出します。また、本プログラムでは、高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民、数学、理科、外国語（英語）、外国語（中国語））を取得しようとする者にも配慮が施されています。

3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標）

- 複数の学問分野にまたがる学際的な領域や、既存の枠組みを超えた新領域の学問に対する関心を基盤に現代社会をリードすることができる。
- 深い思考と独創的な視点、豊かな想像力を基盤に、新しい学問分野の創造を目指すことができる。
- 常に活発な学問的関心を抱き、総合的な視点から新しい状況・環境に対応できる。
- 異文化・異領域への共感と理解を深めると同時に、自己の見解を説得的に主張することにより、国際社会で活躍できる。

4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

- 既存の学問体系を尊重しながら、複数の学問領域で創出された知識や研究法を学ぶと同時に、それぞれの領域が現代の諸問題とどのように関連しているのかを理解できる教育を行います。
- 複雑で多岐にわたる知識や情報の収集整理と分析統合を通して、それらの持つ新たな意味や価値をみいだす能力を育成する教育を行います。
- 多角的な視野からの知識に基づき、さまざまな課題を総合的に解決し、自己の責任において判断し、行動できる態度を育成する教育を行います。
- 日本語と外国語の表現力・理解力および豊かな感性を涵養し、異文化・異領域の人びとにに対するコミュニケーションやプレゼンテーションの能力を育成する教育を行います。

5. 開始時期・受入条件

プログラムは、入学とともに開始されます。総合科学部では、入学試験は文科系科目と理科系科目に分かれていますが、どちらの科目で入学しても、入学後の単位の修得および教育領域選択に、影響はありません。教養教育科目履修にあたっては、自分の学習内容の方向性をみずえた履修計画を立案することを、学生ひとりひとりに強く望みます。

6. 取得可能な資格

高等学校教諭一種免許状（地理歴史、公民、数学、理科、外国語（英語）、外国語（中国語））

7. 授業科目及び授業内容

※授業科目は、別紙1の履修表を参照すること。

※授業内容は、各年度に公開されるシラバスを参照すること。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示します。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示します。

成績評価	数値変換
S (秀：90点以上)	4
A (優：80～89点)	3
B (良：70～79点)	2
C (可：60～69点)	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

※別紙2の評価項目と評価基準との関係を参照すること。

※別紙3の評価項目と授業科目との関係を参照すること。

※別紙4のカリキュラムマップを参照すること。

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ、配属方法、時期等）

1) 特別研究の着手の条件

3年次後期終了時点で、「総合科学へのいざない」及び「総合科学概論」を含む約100単位以上（教職に関する科目、インターンシップ及び同和教育の授業科目を除く。）を修得している必要があります。

2) 指導教員の決定方法と決定時期

- 指導教員は、主指導教員と副指導教員（複数名）からなります。
- 学生は、原則として自分が選択した教育領域に所属している教員の中から（別紙5参照）、主指導教員を選びます。
- 学生は、主指導教員を決定するために、3年次の7月～10月に所属する教育領域の中で、主指導教員を希望する教員を複数名訪問した上で、「特別研究指導教員決定に係る面談報告書」を作成し、チューターに提出します。
- 学生は、面談報告書に基づき、3年次チューターと相談の上、「特別研究主指導教員希望届」を作成し、11月30日までに、学生支援グループに提出します。12月26日までに主指導教員決定通知を掲示にて発表します。主指導教員を変更する場合は、3年次の3月10日までに「特別研究主指導教員変更希望届」を学生支援グループに提出します。

3) 特別研究開始時期

- 原則として、指導教員決定後に研究に着手します。
- 学生が希望すれば、3年次の8月1日以降に仮指導教員を決定し、早期に研究に着手することができます。なお、そのためには、2年次後期終了時に約80単位以上修得している必要があります。

10. 責任体制

(1) P D C A責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action)）

- 教育領域委員会を設置し、ここで学士教育の実施・評価を行います。
- 教育領域の総括責任者は、教育領域委員会委員長であり、副委員長がこれを補佐します。
- 教育領域委員長および副委員長が、プログラム実施における責任を負います。
- 教育領域委員会内に履修指導小委員会を設置し、学生からの履修相談およびチューターとの連携を図ります。
- 教育領域ごとに領域別履修指導会議を設け、具体的な履修指導や履修上の調整を行います。
- 評価と改善については、学部長が総責任を担います。

(2) プログラムの評価

1) プログラム評価の観点

- 授業科目は目的達成のために体系的に適切に配置されているか。
- 授業内容は体系化の中で適切なものであるか。
- 学生は一定基準以上の目標を達成しているといえるか。

2) 評価の実施方法

- 各セメスターの最終授業終了後、履修学生にアンケートによる授業評価を行います。

3) 学生へのフィードバックの考え方とその方法

- 個々の授業評価に関しては、教員の意見と評価結果を教育領域内で検討し、改善に努めます。
- プログラム全体の評価に関しては、教育領域委員会、研究科長室および評価委員会が連携して評価を行います。

別表（総合科学部細則第5条第3項）

卒業のために必要な授業科目及び単位については下表のとおりです。注1～12も含めて必ず確認の上、履修を進めてください。

区分	科目区分		要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修年次(注1)	
教養コア科目		教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	「1」	
		平和科目	2		2	選択必修	「1」	
		パッケージ別科目	6	選択したパッケージから	2	選択必修	「1」	
教養教育科目	英語(注2)	コミュニケーション基礎	(0)	コミュニケーション基礎Ⅰ	1	自由選択	「1」	
		コミュニケーションⅠ		コミュニケーション基礎Ⅱ	1		「1」	
		コミュニケーションⅡ		コミュニケーションⅠ A	1	選択必修	「1」	
		コミュニケーションⅢ	4	コミュニケーションⅠ B	1		「1」	
		初修外国語 (ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語を選択)		コミュニケーションⅡ A	1		「1」	
		情報科目	2	コミュニケーションⅡ B	1	選択必修	「2」	
		領域科目	30 (注7)	上記4科目から2科目以上				
		健康スポーツ科目		コミュニケーションⅢ A	1			
		基盤科目		コミュニケーションⅢ B	1			
				コミュニケーションⅢ C	1			
				上記3科目から2科目		選択必修		
				ベーシック外国語Ⅰ から2科目	1		「1」	
				ベーシック外国語Ⅱ から2科目	1		「1」	
専門教育科目(注12)		(注3)	48	(注4)	2	選択必修	「1」	
		(注4)	30	健康スポーツ科目から2単位以上3単位以下(注5)	1又は2	選択必修	「1」	
		(注6)	16	基盤科目から6単位以上20単位以下(注4)(注6)	1～3		「1」	
			6	総合科学へのいざない	2	必修	「1」	
				総合科学概論	2	必修	「1」	
				学際科目(注8)	2	選択必修	『2』	
				教育領域科目(注9)(注11)		選択必修	『2』	
				自由選択科目(注10)(注11)		自由選択	『1』	
				特別研究	6	必修	「4」	
卒業要件単位数			128					

注1 「」中の数字は、標準履修開始年次を表している。なお、当該履修年次で単位を修得できなかった場合、これ以降に履修することも可能である。また、『』中の数字は履修開始年次を表しており、これ以降に開講される授業を履修することができる。

注2 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(6単位)に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。

詳細については、学生ハンドブックの教養教育の英語に関する項、「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」及び「外国の研修機関における語学研修の単位認定に関する申合せ」を参照のこと。

注3 「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合のみ、「情報活用演習」を履修することができる。

注4 領域科目及び基盤科目については、2年次から配属される専門教育領域に関わらず、領域科目の各領域及び基盤科目から文系科目、理系科目を問わずバランスよく履修することが望ましい。

注5 健康スポーツ科目については、講義系科目の「健康スポーツ科学」とあわせて実習系科目の「スポーツ実習A」又は「スポーツ実習B」を履修することが望ましい。

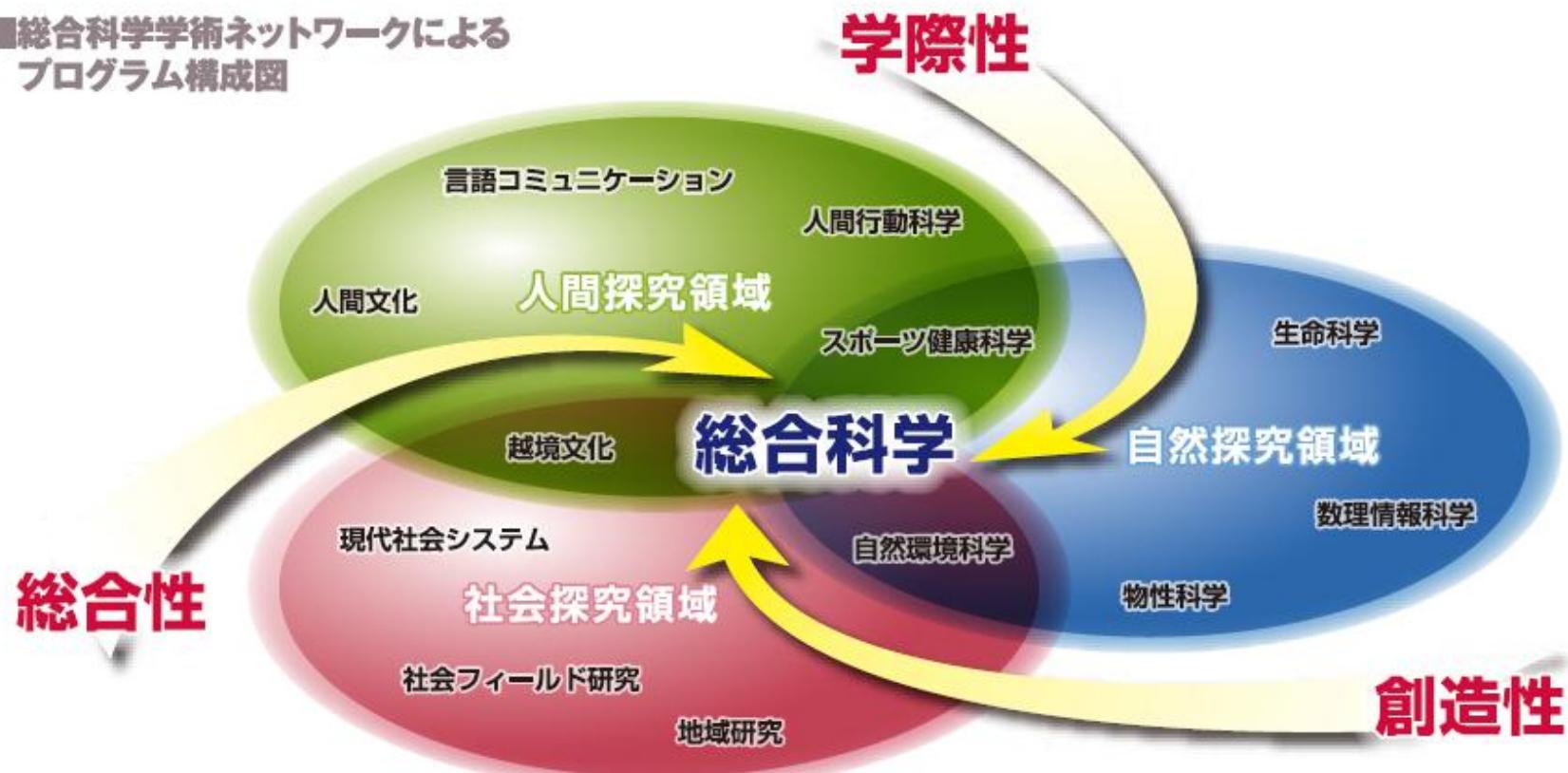
注6 (1)「微分積分通論」は高等学校で数学IIIを履修していない者のみ選択できる。
(2)「初修化学」は高等学校で化学IIを履修していない者のみ選択できる。

注7 コミュニケーション基礎の履修により修得した単位を領域科目、健康スポーツ科目及び基盤科目として修得する30単位に算入することができる。

注8 2単位を超えて履修した場合は、自由選択科目に算入することができる。

- 注9 (1) 教育領域科目の履修にあたっては、3つの教育領域（人間探究領域、自然探究領域、社会探究領域）の中から、重点的に学習したい教育領域を1つ選択して登録するものとする。
(2) 登録した教育領域の中で重点的に学習したい授業科目群を1つ選び、それを主授業科目群とする。
(3) 教育領域科目の48単位は、全ての教育領域の授業科目群（以下「全授業科目群」という。）において開講されている授業の中から履修すること。その際、主授業科目群以外の全授業科目群から、合計で12単位以上履修することが必要である。
(4) 教育領域科目の単位数については、最終年次における最終的な履修結果において、以下の順で自由選択科目に算入する。
① 主授業科目群の単位数を超えた、その他の各授業科目群の単位数
② 48単位を超えて修得した全教育領域科目の単位数
- 注10 (1) 他学部等の授業科目を10単位まで含むことができる。
(2) 専門共通科目的単位を修得した場合は、自由選択科目に算入することとする。
- 注11 教育領域科目か自由選択科目のいずれかにおいて、登録した教育領域以外で開講される授業（授業科目群に提供されているものに限る）を6単位以上含まなければならない。
- 注12 「教職に関する科目」及び「インターンシップ」及び「副専攻プログラムとして履修した科目」は、卒業要件単位に算入されない。

■総合科学学術ネットワークによる
プログラム構成図



総合科学プログラムにおける学習の成果 評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 当該の個別学問体系の重要性と特性、基本となる理論的枠組みへの知識・理解	個別の学問体系の重要性と特性、基本となる理論的枠組みと特徴について体系的に十分理解し、説明できる。	個別の学問体系の重要性と特性、基本となる理論的枠組みと特徴について理解し、説明できる。	個別の学問体系の重要性と特性、基本となる理論的枠組みと特徴について概ね理解できる。
	(2) 異文化・異領域の人々に対するコミュニケーション能力の前提となる日本語・日本文化及び外国語・外国文化への知識・理解	異文化・異領域の人々に対するコミュニケーション能力の前提となる日本語・日本文化及び外国語・外国文化について十分理解し、適切に受発信できる。	異文化・異領域の人々に対するコミュニケーション能力の前提となる日本語・日本文化及び外国語・外国文化について十分理解し、受発信できる。	異文化・異領域の人々に対するコミュニケーション能力の前提となる日本語・日本文化及び外国語・外国文化について理解し、概ね受発信できる。
	(3) 個別学問体系の密接な相互関係とその重要性を認識するうえでの必要な知識・理解	個別学問体系の密接な相互関係とその重要性を十分理解・認識し、適切に説明できる。	個別学問体系の密接な相互関係とその重要性を十分理解・認識し、説明できる。	個別学問体系の密接な相互関係とその重要性を理解・認識し、概ね説明できる。
能力・技能	(1) 個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを収集・解析する能力・技能	個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを十分収集し、的確に解析することができる。	個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを十分収集し、解析することができる。	個別学問体系に関する多様な情報源から必要な文献資料やデータを収集し、概ね解析することができる。
	(2) 課題の考察のために必要な理論・方法を特定する能力・技能	課題の考察のために必要な理論・方法を的確に特定し、それを十分活用できる。	課題の考察のために必要な理論・方法を的確に特定し、それを活用できる。	課題の考察のために必要な理論・方法を特定し、それを概ね活用できる。
	(3) 自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問などにも回答できる能力・技能	自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問等にも的確に回答できる。	自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問等にも回答できる。	自らの研究成果をレポートや論文にまとめ、ゼミや研究会等で発表し、質問等にも概ね回答できる。
総合的な力	(1) 研究倫理と主体的な知的関心に基づき課題を発見し、解決に向けた方策を立案できる総合的な能力	研究倫理と主体的な知的関心に基づき課題を率先して発見し、解決に向けた有効な方策を立案できる。	研究倫理と主体的な知的関心に基づき課題を率先して発見し、解決に向けた方策を立案できる。	研究倫理と主体的な知的関心に基づき課題を発見し、解決に向けた方策を概ね立案できる。
	(2) 柔軟な発想と構想力のもとに、課題を考察するために必要な知識・理解と能力・技能を組合せ、主体的に研究する能力	柔軟な発想と構想力のもとに、課題を考察するために必要な知識・理解と能力・技能を有効に発揮することができる。	柔軟な発想と構想力のもとに、課題を考察するために必要な知識・理解と能力・技能を発揮することができる。	概ね柔軟な発想と構想力のもとに、課題を考察するために必要な知識・理解と能力・技能を概ね発揮することができる。
	(3) 課題の克服について異文化・異領域の人々に向けて、自らの考えを論理的かつ簡潔に説明し、討論の中で指導力を発揮できる総合的な能力	課題の克服について異文化・異領域の人々に向けて、自らの考えを論理的かつ簡潔に説明し、討論の中で十分指導力を発揮できる。	課題の克服について異文化・異領域の人々に向けて、自らの考えを論理的かつ簡潔に説明し、討論の中で指導力を発揮できる。	課題の克服について異文化・異領域の人々に向けて、自らの考えを説明し、討論の中で概ね指導力を発揮できる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

総合科学プログラムでは、教養教育を「専門に直結する基礎知識・技術を習得する」だけではなく、「広く学問への関心を高め、ものごとを学際的・総合的にとらえられる能力の素地を培う」場であると位置づけています。習得すべき具体的な学習内容は、以下のとおりです。

- ・豊かな感受性・柔軟な発想、平和に関する多角的観点からの理解、分野間の相互関係の理解 など

↓
視野を広げる、視点をかえる

- ・基礎知識の獲得、語学力の習得、情報活用能力の習得、体力・健康についての理解 など

↓
学びの土台をつくる

別紙4

総合科学プログラムカリキュラムマップ^o

※各授業科目の位置づけは別紙3を参照

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	○領域科目	○領域科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
	○健康スポーツ科目	○健康スポーツ科目						
	○平和科目	○平和科目						
	○外国語科目	○外国語科目	○外国語科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
	○平和科目	○平和科目	○専門科目					
	○領域科目	○領域科目						
	◎総合科学へのいざない	○パッケージ科目	○パッケージ科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
	○平和科目	○平和科目	○専門科目					
	○領域科目	○領域科目						
		◎総合科学概論						
能力・技能	○情報科目		○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
	◎教養ゼミ		○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
	◎教養ゼミ	◎総合科学概論	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
	◎総合科学へのいざない						◎特別研究	◎特別研究
総合的な力			○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
		◎総合科学概論	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目
				○学際科目	○学際科目	○学際科目	○学際科目	○学際科目
							◎特別研究	◎特別研究
		△共通科目	△共通科目	△共通科目	△共通科目	△共通科目	△共通科目	△共通科目
			○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目	○専門科目

(例) 教養科目

専門基礎

専門科目

卒業論文

(◎)必修科目

(○)選択必修科目

(△)選択科目

